



**全ての人を幸せにする
JEWELRY**

● 濫澤博子 (しぶさわ ひろこ) さん

大手ジュエリーブランドにてデザイナーとして活躍したが、心身ともに疲れ果てジェリー本来の意味を再考。買う人はもちろん、制作や販売も見直し、関わるすべての人を幸せにするブランド「Uka~羽花~」を立ち上げ。



**場の中でパーキンソン病の方の運動
継続を促しつつでも豊かな暮らしを**

● 小川順也 (おがわ じゅんや) さん

理学療法士の小川さん。パーキンソン病患者が退院しても、家で運動を続けられず悪化する状況を改善したい。当事者と共につくる「PD Cafe」は情報共有と相互扶助の場。小平市から始まり現在7拠点、全国に拡大中だ。



**「一人一人が主人公」
サンシャインプロジェクトを日本に**

● 細越美和 (ほそごえ みわ) さん

高校時代に失った自信を取り戻してくれたのが、一人ひとりが主人公になれるカナダ留学。その経験を活かして、障害や不登校など悩みを持つ人をカナダ留学サポートし、約9割が元気を取り戻す。日本国内での展開を計画。



**ゲームを活用し、
より良い社会と未来へ**

● 後藤 誠 (ごとう まこと) さん

ゲーム制作に関わってきて「ゲームに救われた」「ゲームで友人ができた」「人生が変わった」など、日本製ゲームの力を実感。災害、医療、社会問題などをシリアスゲームにして、生きる力やリアルな行動変化につなげたい。



**【大学生枠】政治の見える化によって
社会前に進める**

● 三輪功祐 (みわ こうすけ) さん

民主主義国家として日本人は政治に無関心・無思考の人が多すぎる。昨年の参院選でテストした中立的・網羅的選挙情報サイトが1週間300万PVの大成功。さらに発展させ、関心の喚起、選挙と政治の可視化を目指す。



財団理事長代理・佐藤梨奈からグランプリの小川順也さんに起業助成金の目録を授与。

2月25日に開催された「ソーシャルビジネスグランプリ2018」。2年ぶりに基調講演に立った田坂広志名誉学長の講演テーマは、「日本型社会起業家とは何か―社会起業家は資本主義を変える―」。日本人にとって「ソーシャルビジネス」という言葉は「白い白鳥」と言うような違和感を感じる。海外では営利追求と社会貢献は別のものとして語られるが、従来の日本の商人は社会貢献の結果が利益であると考えた。アショカのビル・ドレイトンと話した反応からも、間違いなく日本型が世界基準になると予測する。さらに「使命」とは命を使うこと。限りある人生で自分の命を何に使うのか、共感できる仲間と何を成し遂げるのかしっかり考えてほしいと訴えた。

ファイナリスト5名によるプレゼンでは、大学生の三輪功祐さんが共感大賞を獲得。「大学生にはなかなか共感してもらえなかったのが嬉しい」と笑いを誘った。グランプリは理学療法士の小川順也さんが取り組む、パーキンソン病患者の運動継続支援をする場作り。「患者やスタッフみんなの力を引き出して、よりよい場を作っていくたい」と応えた。小川さんには当財団の起業助成金が授与された。



世の中を変えたいならば自分が変わらなくてはと田坂名誉学長。



自分を磨けば磨くほど、痛いけれども輝くはずと田中勇一学長。



ソーシャルコミュニケーションタイムとして設けられた、社会起業大学の学生やOBの活動紹介ブース。



来場者が選ぶ共感大賞の投票コーナー

